

【コース概要】

岡山県精神科医療センター

依存症精神医学研修コース（1年集中コース）

1. 特色

アルコール使用障害を含めた物質使用障害（SUD）の高い有病率や、SUDに身体・精神障害を合併することが多いことを考えると、一般精神科医が依存症医学の基本的なコンピテンシーを備えることは必須です。しかしながら、依存症精神医学について体系的に学ぶ機会は、我が国において限られています。

当院は、中四国で最初に依存症拠点機関の指定を国から受けた、依存症診療の実績がある医療機関です。外来診療、入院診療、多職種連携治療が活発で、自助グループや民間回復施設とのつながりも深く、短期間で、依存症に関する多くの臨床経験を積むことができます。

ただし、研修期間中も、外来や当直を含めた一般精神科臨床にも従事します。また、1年期間終了後の延長も可能です。

2. 依存症精神医学研修 1年集中プログラム内容

(1) 前期（6カ月間）

- ① 依存症精神医学に関する知識の向上：アルコール使用障害や物質使用障害のみならず、ゲーム障害、ギャンブル障害の行動嗜癖の疫学と病態について学びます。
- ② 物質使用障害を抱える患者に対する肯定的な態度と診療への責任感の育成：指導医のスーパーバイズを受けながら、急性期病棟で担当患者を受け持ちます。
- ③ 治療プログラム・自助グループに参加します。
- ④ 指導医の外来診療から、外来診療について学びます。

(2) 後期（6カ月間）

- ① 包括的アセスメントと治療計画の策定：生物・心理・社会的な視点から広範なアセスメントを実践し、治療計画を立て、多職種チームのリーダーとして役割を果たします。
- ② 心理社会的な治療の実践：行動療法、再発予防プログラム、動機付け面接を実践します。
- ③ 併存精神疾患の複雑症例：気分障害やADHDを併存する症例を経験し、EBMに基づいた治療実践を行います。

3. 研修修了時に習得できる依存症精神医学に関する基本的能力

研修修了時には以下の依存症精神医学に関する基本的能力が身につくことが期待されます。

- ・ 物質使用障害のスクリーニング
- ・ 簡易介入
- ・ 物質使用障害の診断的面接
- ・ 物質使用障害に伴うリスク管理

- ・物質使用障害のケースフォーミュレーション
- ・併存精神疾患のアセスメントと治療
- ・アルコール依存症に対する薬物療法
- ・リカバリー志向的アプローチ
- ・認知行動療法
- ・動機づけ面接
- ・自助グループや回復施設（ダルク、マック等）との協働等

4. 研修責任者

院長 来住 由樹
研修責任者 橋本 望

5. 問い合わせ窓口

医師支援班（医師採用担当） 三木

不明な点などありましたら、問い合わせフォームからお問い合わせください。
内容に応じて、研修責任者等から電話またはメールにて回答いたします。